

新潟県税理士協同組合 実務研修会

教育・情報担当常務理事 小菅 洋司

毎年秋にあんしん財団様と税理士協同組合との共催で行われている実務研修会を、今年は10月10日にホテルニューオータニ長岡で開催させて頂きました。

今回は「実務家のための減価償却資産等の留意点」というテーマで、東京税理士会から山下雄次先生をお招きしました。

改正直後の資産税や事業承継税制などと違い、割と派手ではないというか目立つ内容ではない「減価償却資産」という地味なテーマでしたので、組合員・賛助会員の皆様がどれだけ参加して下さいるか少々心配でしたが、会場は満杯になるくらいの盛況で、私の単なる杞憂でありました。むしろ研修が進むにつれ、当たり前である「減価償却資産」であるからこそやはり深く、気をつけなければいけないことが沢山あることを痛感させられました。

講義の内容としては、次のような順で説明して頂きました。

- I. 取得価額の決定時における留意点
- II. 耐用年数の決定時における留意点
- III. 取得時期、事業供与日の判定
- IV. 資本的支出と修繕費の区分
- V. 個別論点の整理
- VI. 資産別の事例検討
- VII. 取得と同時にを行う除却損の留意点
- VIII. 有姿除却を行う場合のポイント
- IX. 電話加入権の除却
- X. 設備投資に伴う優遇税制

今回の講義のレジュメは山下先生の著作である「実務家のための減価償却資産等の留意点～取得、資本的支出・修繕費、除却」(税務研究会出版局)と連動するような形式になっており、参照ページが掲載されているので、併せて読み返すと更に分かりやすかったのかもしれませんが(当日は即売

り切れてしまい、入手できませんでしたので、後日購入しました)。

ちなみに、講師の山下先生は工学部建築学科を卒業、その後ハウスメーカー勤務の経験をお持ちでしたので、それが「減価償却資産」に関心を持ちきっかけですか?とセミナー後に伺ったところ、「全然関係ありません(笑)」とのことでした。

講義では間違いやすい内容について通達や判例を通しての解説が多くありました。個人的には割とページと時間を割いて頂いた「建物」「建物付属設備」の論点が気になりました。そもそもその区分はどうするのか?取得価額、耐用年数は?ということ、具体例として「ユニットバス」があげられていましたが、これが「建物」「器具備品」「建物付属設備」のどれなのか?また、「内部造作」の処理について、自己所有の場合、他人所有の場合分け後の処理等々、色々と忘れていたり、ハッとさせられるような内容がその他にも多々ありました。

よくよく考えてみると、「減価償却資産」という内容を体系的に網羅して学ぶ機会は、受験生時代の財務諸表論や法人税以外ではあまり覚えがありません。今回のセミナーは私自身大変勉強になりました。皆さんはいかがだったでしょうか?

今後も組合員・賛助会員の皆様のお役に立つような研修を企画してまいりますので、ご意見等ありましたら是非お聞かせ下さい。



大同生命との業務推進会議と表彰式

常務理事 山田 康人

まずは、日頃から大同生命保険を委託保険会社とする関東信越税協連共済会の総合事業保障プランにご理解とご協力を頂きまして、大変ありがとうございます。この保険事業は、「相互扶助の精神」に基づき、①関与先企業の繁栄、②税理士事務所の繁栄、③税理士会・税協の繁栄の「三つの繁栄」という共通理念のもと推進活動を展開しております。

新潟県税協には今年度は年間目標が125億円を与えられております。4月から9月報告分までの累積実績は75億8千万円で目標に対する進捗率は60.7%であります。関東信越地区の平均の68%を下回っております。また、県下13地域にも目標が設定されており、三条・村上・高田の3地域におかれましては、年間目標額を既にクリアされております。ご協力ありがとうございます。地域目標を達成した地域の挙積組合員様にはギフト券を贈呈する施策を県税協では実施しております。

県税協の保有契約高は、平成29年度末から平成30年度末にかけては、節税商品の販売が伸びた為410億円程増加致しました。しかし、所謂バレンタインショックの影響も有ってか、令和1年8月末では22億円の保有が減少し、保有高が2,021億円となっております。保有高が減るという事は、手数料収入の減少にも繋がります。

4月～8月までの手数料収入は約2,900万円です。昨年同月より増加し伸張率は108.4%ですが、これは過去の挙積に基づくものであり、来年度以降の手数料収入については危惧されるところであります。組合員・賛助会員の皆様には、保有契約高を増加させる為にも、是非保障重視商品の推進をお願い致します。

さて、新潟県税協と大同生命とは毎年10月に業務推進協議会を開催しております。令和元年度は、10月4日にホテルニューオータニ長岡で開催されました。

協議会の流れとしては、①西片理事長挨拶、②大

同生命峯関東信越地区営業本部税理士推進部長の挨拶、③担当常務理事による推進実績中間報告、④キャンペーン該当者表彰式、⑤大同生命下村関東信越税理士共済支社長からの情報提供、⑥(株)ストライクの中村様より『後継者問題解決の成功事例に学ぶ中小企業のM&A活用法』と題した研修会、そして最後に感謝の集い(懇親会)となっております。

表彰式は、平成30度総合事業保障プラン第2回・第3回キャンペーンの該当者と令和元年度第1回キャンペーンの該当者を税理士組合員の部と営業職員の部で表彰させて頂きました。また該当者にはギフト券も贈呈させて頂いております。表彰されました皆様方にはおめでとうございますという気持ちとありがとうございましたという感謝の気持ちでいっぱいです。

参加者が楽しみにされている懇親会は、罇県税協副理事長の挨拶の後、大同生命井手新潟支社長の乾杯のご発声とともに賑やかに会は進行し、皆さんがほろ酔い気分になったところでアトラクションのお楽しみ抽選会です。景品は魅力あるものばかり。参加者全員に当たります。バカラのグラスやエスプレッソマシーン、血圧計・体重計・バウムクーヘン等様々。大同生命のスタッフ方が景品を考えてくれました。ありがとうございます。中締め挨拶は田村県税協顧問にして頂き、盛会のうちに懇親会はお開きとなりました。

我々税理士は関与先に対して様々な助言・提案をします。保険提案もその業務に当然入るものと考えます。関与先の経営者にも何かあっても、その関与先が再起出来るように。何度でも。事業経営が長く続く関与先が多い事務所は、いい事務所だと思います。関与先の繁栄の為、今一度関与先の様々なリスクについてお考えになって下さい。総合事業保障プランの大同生命のトータル保障は、きっとお役に立つことと思います。是非保障重視で推進して頂きたいと思っております。

新潟県税理士協同組合主催麻雀大会

常務理事 堀川 泰豊

令和元年11月16日(土)新潟市の割烹の宿「湖畔」において新潟県税理士協同組合主催の親善麻雀大会が、組合員・賛助会員と提携会社を含め52人による13卓で、盛大に行われました。13卓というのは過去最高の卓数です。

大会は、西片理事長の挨拶の後、競技開始前に、競技方法と満貫以上の役の場合には満貫賞が用意されているとの説明があり、午後1時より半チャン3回戦制(1時間制限)で始まりました。

1～2回戦はくじ引きによる組み合わせで、3回戦は1～2回戦の合計点数の上位者より4人ずつ区切った組み合わせにし、3回の総合計点数により順位を決めるルールで進行しました。

私は4年前からこの麻雀大会に参加させて頂いています。「皆様に気持ちよく打ってもらおう」という接待麻雀を目指しているわけではないのですが、残念ながら毎回冴えない成績しか残せていません。

今回は一回戦の初戦と、三回戦の終了間際に役満という最高の役が出て盛り上がりました！いつか私もこのような大会で役満あがりをしてみたいです。

競技終了後、表彰式を兼ねた懇親会が引き続き

行われ、成績上位者の他、数多くの賞も用意されており、該当者に賞品が授与されました。

参加された方の中には、役は分かるが点数が

数えられない方も何人か居ましたが、それはそれで周りの人達が丁寧に教えてくれますので心配は無用です。

この楽しい麻雀大会を存続していきたいので、常連の皆様はもちろん、若手や女性の先生方も積極的に参加してください！



成績上位者は、次のとおりです。

優勝	山本 勝 (新潟地域)
準優勝	五十嵐秀夫 (新潟地域)
第3位	青木美智夫 (小千谷地域)
第4位	松尾 俊和 (朝日生命)
第5位	長谷川隆功 (三条地域)

2位じゃダメなんですか？

新潟地域 山本 勝

もしも、どんな高校生活を送っていましたか？と聞かれれば、頭を悩ませる事なく「麻雀ばかりしました」と即答できる。何せ学生10人程度の下宿生活であったから面子に事欠くことはなく、寝る間を惜しんで麻雀に明け暮れていた。

しかし社会人になると牌を握る機会はめっきり減ってしまった。最後に握ったのはもう何年前だろう、子供が小さい時に一緒に遊んだ時か、いや、あれはドラ○もんの顔が描いてあったやつだ。

県税協で麻雀大会が行われていることは知っていたが、税理士になりたての頃は知り合いも少なく、参加には尻込みしていた。

今年は参加してみようか・・・しかし大会は土曜日に行われる。仕事は休みだが大なり小なり家族サービスという名の業務が求められる曜日だ。ここは「賞品が出るらしいよ」という家族へのメリットをチラつかせる事で参加に踏み切った。

大会当日、出がけに妻君に「いつも麻雀のゲームで練習してるから優勝できるんじゃない」と本気なんだか皮肉なんだか分からない声を掛けられた。これは何としても戦利品を持ち帰らなくては・・・。

変なプレッシャーを抱えて挑んだ初の大会は、

どうやら天の御加護があったようで、最後は柔道の旗判定のような形ではあったが最高の結果を得ることができた。

優勝賞品と副賞として高志智寄稿権を手にし、安堵して家路につき扉を開けた次の瞬間、妻君から「優勝した？」のお言葉。

いや、まあ、結果しましたけど、そんな簡単なもんじゃないよ、というのは参加した先生方なら解ってもらえますよね。

最後になりましたが、大会運営の役員の皆様、参加された先生方、大変お疲れ様でした。

